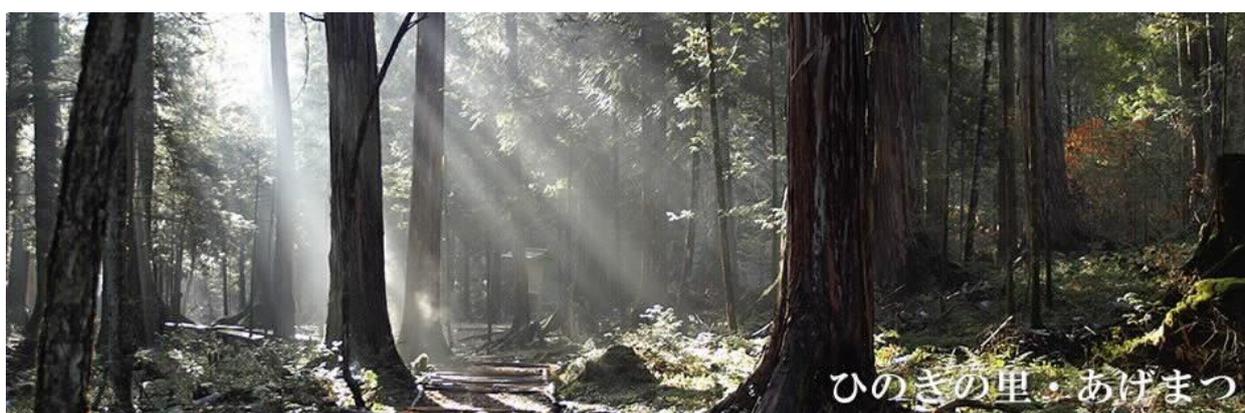


【様式1-1】

上松町 横断歩道橋長寿命化修繕計画



令和5年3月

上松町

目 次

1. 長寿命化修繕計画の背景と目的及び方針	1
2. 長寿命化修繕計画の概要	1
3. 長寿命化修繕計画の対象横断歩道橋	2
4. 健全度の把握及び日常的な維持管理に 関する基本的な方針	2
5. 対象橋梁の長寿命化及び修繕・架替えに 係る費用の縮減に関する基本的な方針	2
6. 長寿命化修繕計画による効果	3
7. 維持管理計画	3
○添付資料	
・維持管理計画	
・位置図	

1. 長寿命化修繕計画の背景と目的及び方針

1) 背景

現在、上松町が管理する横断歩道橋は、上松歩道橋と見帰歩道橋の2橋です。
その内、上松歩道橋は、1968年に建設され54年経過しており、高齢化橋梁となっています。また、見帰歩道橋は、1996年に建設され26年が経過しています。

2) 目的

このような背景から、上松町では5年に1度の定期点検を実施しています。
これらの点検結果を基に、長寿命化修繕計画を策定し実行することにより、維持管理コストの縮減を図ることが本計画の主な目的です。

3) 方針

従来の「壊れたら直す」「壊れたら架け替える」という対応では、その費用が多大的になることが懸念されることから、歩道橋においても道路橋と同様に、計画的な点検及び維持管理によって、維持管理コストを縮減していく方針です。

計画期間は、令和5年3月から令和15年3月までの10年間とします。

2. 長寿命化修繕計画の概要

対象となる横断歩道橋に対して、平成29年度に「横断歩道橋定期点検要領」（平成26年国土交通省道路局）」に準拠した定期点検を実施し、その結果に基づいて健全度、補修の必要性などを検討しました。

その結果、2橋共に「健全度Ⅲ」の「早期措置段階」と判定されたことから、小中学生の通学路となっている重要な横断歩道橋であることに鑑み、上松歩道橋を2020年度に、見帰歩道橋を2021年度に修繕工事を実施しました。

また、2022年度に近接目視による定期点検を行い、健全度の判定を行いました。
これらの結果を踏まえ、以下の項目に留意して長寿命化計画を策定します。

判定区分の割合 平成29年度点検：判定Ⅲ＝100.0%（2橋）
令和4年度点検：判定Ⅱ＝100.0%（2橋）

- ①定期点検：横断歩道橋の定期点検を義務化し、健全度を4段階に区分する
- ②優先順位：健全度及び横断歩道橋の重要度なども評価し、総合的に判断する
- ③緊急性への対応：緊急性の高い健全度Ⅲの損傷は5年以内に補修する
- ④歩道橋の耐久性は約100年として計画する

3. 長寿命化修繕計画の対象横断歩道橋

上松町伊賀管理する横断歩道橋、全2橋を計画の対象とします。

道路種別	1級町道	2級町道	3級町道	計
全管理横断歩道数	2	0	0	2
計画策定横断歩道橋数	2	0	0	2

4. 健全度の把握及び日常的な維持管理に関する基本的な方針

1) 健全度の把握の基本的な方針

国土交通省『定期点検要領』に準じた定期点検を5年に1回を目途に実施することで、横断歩道橋の損傷状況（健全度）を把握し、今後の修繕計画に反映させます。

2) 日常的な維持管理に関する基本的な方針

日常的な維持管理としては、定期的な巡回、異常の早期発見に努めるとともに、以下のような小規模な維持作業を随時実施します。

- ・橋面、階段部分の清掃
- ・排水施設の土砂撤去等
- ・塗装の剥離、さびの補修

3) 新技術の活用に関する基本的な方針

次回点検の令和9年度までに管理する2橋について、点検に係る新技術の活用を検討し、その内1橋について新技術を活用することを目標とします。
また、今後の修繕を行う際にも新技術の活用を検討します。

5. 対象橋梁の長寿命化及び修繕・架替えに係る費用の縮減に関する基本的な方針

(1) 維持管理コストの縮減効果

- ・定期点検で現状を把握し、適切な時期・工法により計画的な修繕工事を実施することで安全性が確保され、道路の機能が将来にわたって維持できます。
- ・従来の対症療法的な維持管理から、予防保全的な維持管理に転換することで、横断歩道橋の長寿命化が図られ、令和9年度までに30万円程度のコスト縮減を目指します。
- ・状態に応じた予防保全的な修繕計画を策定することで、予算配分の平準化が図れます。

(2) 定期点検の実施による現状把握

- ・平準化により、コストの縮減を図りながら、今後補修が必要となる健全性の判定区分【Ⅱ、Ⅲ、Ⅳ】に基づいた補修を計画的に行い、長寿命化の実現と、安心・安全を確保することで、横断歩道橋の健全性を維持していきます。

(3) 定期点検の実施による現状把握

- ・点検を5年に1回の頻度で実施し、現状を把握していきます。
- ・平成29年度に上松町で管理する横断歩道橋、全2橋の点検を実施しました。

番号	橋梁名	路線名	延長(m)	架設年度	供用年数	補修内容・時期					
						2017(H29)	2018(H30)	2019(R01)	2020(R02)	2021(R03)	2022(R04)
1	上松歩道橋	広小路見帰線	35.3	S43	54	点検Ⅲ		設計	工事		点検Ⅱ
2	見帰歩道橋	広小路見帰線	73.4	H8	26	点検Ⅲ			設計	工事	点検Ⅱ

令和5年3月現在

(4) 集約化・撤去・機能縮小などによる費用の縮減に関する方針

- ・令和8年度までに、利用頻度の考慮や地元住民の意向を踏まえ、撤去の必要性について検討を行う。

6. 対策の優先順位の考え方

- ・点検結果に基づき、効率的な維持及び修繕を図るため、必要な措置を講じます。
- ・対策の優先順位は、利用者の視点から、①横断歩道橋の健全性、②バス路線や沿道地区の利用性、③第三者被害波及性、④経過年数や横断歩道橋の構造形式による耐久性、⑤補修の難易度や費用面による効率性を総合的に判断します。

7. 維持管理計画

- ・維持管理計画、計画位置図を添付資料に示します。
- ・点検結果に基づく、損傷個所の監視を行います。
- ・対策費用については、点検・診断結果に基づき、横断歩道橋の状態等を把握し、対策範囲や規模を対策の目的を満足する範囲で経済性などを考慮し決定します。

【様式1-2】

5. 横断歩道橋維持管理計画

横断歩道橋名	路線名	橋長(m)	幅員(m)	上部工形式	架設年度	供用年数	点検年次	判定区分	対策の内容・時期												
									2022年 R04	2023年 R05	2024年 R06	2025年 R07	2026年 R08	2027年 R09	2028年 R10	2029年 R11	2030年 R12	2031年 R13	2032年 R14		
上松歩道橋	広小路見帰線	25.2	1.5	鋼H桁	1968 S43	54	H29	II	定期点検1	 監視(日常点検) ※1					定期点検	 点検結果による対策 ※2					定期点検
見帰歩道橋	広小路見帰線	73.4	2.0	鋼単純 中隔板桁	1996 H08	26	H29	II	定期点検	 監視(日常点検) ※1					定期点検	 点検結果による対策 ※2					定期点検

※1 : R4の点検結果により、次期点検までの期間については、損傷個所の監視を行う。

※2 : R10以降の補修対策については、R9の点検結果により、対策の要否及び対策費用を判断する。

横断歩道橋長寿命化修繕計画 位置図



出典：国土地理院 電子国土 Web 地理院地図（一部加筆）